

研 究 発 表 会 開 催 通 知

(平成元年 2 月 15 日～3 月 31 日)

研 究 会	日 時		会 場	備 考
情 報 学 基 礎	2 月 20 日 (月)	13 : 00～17 : 00	機械振興会館	前号参照
設 計 自 動 化	2 月 20 日 (月) 2 月 21 日 (火)	13 : 30～17 : 00 9 : 30～17 : 00	同 上	同 上
マイクロコンピュータとワークステーション	2 月 21 日 (火)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
* グラフィクスと CAD	2 月 22 日 (水) 2 月 23 日 (木)	13 : 00～17 : 15 9 : 30～17 : 10	NTT 武蔵野 日 立・中 研	下記参照
オペレーティング・システム	2 月 24 日 (金)	10 : 20～16 : 45	機械振興会館	前号参照
コンピュータと教育	2 月 25 日 (土)	10 : 00～18 : 00	九 工 大	下記参照
文書処理とヒューマンインタフェース	3 月 8 日 (水)	13 : 00～17 : 30	富士ゼロックス	同 上
ソフトウェア基礎論	3 月 10 日 (金)	10 : 00～17 : 20	機械振興会館	同 上
マルチメディア通信と分散処理	3 月 13 日 (月)	10 : 30～17 : 00	同 上	同 上
知識工学と人工知能	3 月 13 日 (月) 3 月 14 日 (火)	13 : 00～17 : 15 10 : 00～17 : 15	同 上	同 上
データベース・システム	3 月 14 日 (火)	13 : 00～17 : 00	同 上	同 上
記 号 処 理	3 月 14 日 (火)	13 : 00～17 : 00	NTT 武蔵野	同 上
数 値 解 析	3 月 14 日 (火)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
情 報 シ ス テ ム	3 月 14 日 (火)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
自 然 言 語 処 理	3 月 18 日 (土)	10 : 00～17 : 00	京 大	同 上
ア ル ゴ リ ズ ム	3 月 22 日 (水)	9 : 00～12 : 10	機械振興会館	同 上
コンピュータビジョン	3 月 23 日 (木)	13 : 00～18 : 00	東 大 生 研	同 上
計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	3 月 23 日 (木)	14 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上

* グラフィクスと CAD は日時および 1 日めの会場が変更となっております。

◆ 第 37 回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数 : 17 件)

(主査 : 川合 慧, 幹事 : 中嶋正之, 真名垣昌夫, 守屋慎次)

日 時 平成元年 2 月 22 日 (水) 午後 1 時～5 時 15 分

2 月 23 日 (木) 午前 9 時半～午後 5 時 10 分

会 場 2 月 22 日 (水) NTT 武蔵野研究開発センター 5-302 B (TV 講義室)

(武蔵野市緑町 3-9-11, JR (中央線) : 三鷹下車, 北口関東バス乗り場より, 北裏, 武蔵関, 田無橋場行きにて武蔵野市役所下車, または東伏見, 西武柳沢行きにて武蔵野住宅下車, 共に徒歩約 5 分. Tel. 0422 (59) 3277)

2 月 23 日 (木) 日立 中央研究所 記念館 第 2 会議室

〔国分寺市東恋が窪 1-280, JR 中央線：国分寺下車, 北口より徒歩約 7 分. Tel. 0423 (23) 1111〕

*なお, 当日は共に正門受付で研究会参加のむねを告げ, 入門手続きをしてください.

* なお 1 月号本欄に掲載しました日時および 1 日目の会場 (日立・中研→NTT 武蔵野) が変更となつていま
すので本欄のプログラムを再確認のうえ御出席ください.

議 題

2 月 22 日 (水) (7 件)

- (1) 錯視現象の数理解析 大矢雅則, 長澤浩史 (東理大・理工)
- (2) パターン認識の道具としてのボロノイ図構成算法の整備 杉原厚吉 (東大・工)
- (3) ストリングマッチングを用いた高速化テンプレートマッチング方式
朱 瑞 豊, 中嶋正之, 安居院猛 (東工大・像情報)
- (4) 誘引関係に基づく離散型クラスタリングシステム 楠原由紀雄, 辰巳昭治 (豊橋技科大)
- (5) データ解析のための特徴空間の次元縮小の一方法 森 薫, 市野 学, 矢口博之 (東京電機大)
- (6) 一般化 Hough 変換による任意図形検出アルゴリズム
大橋靖弘, 大和淳二, 石井郁夫, 牧野秀夫 (新潟大・工)

2 月 23 日 (木) 9:30~12:35 (5 件)

- (8) 尾根線にもとづく山岳形状の定義法 八重樫一仁, 千葉則茂 (岩手大)
- (9) 3 次元 CG のための配色エディター 宇佐美芳明 (日立)
- (10) 画像生成システム SIG 2 安部美乃夫, 西村健二, 高畠一哉, 平井 誠, 中瀬義盛 (松下電器)
- (11) 対話的スクリプトによるアニメーションの生成
栗原恒弥 (日立・中研), 渡辺 智 (日立 超 LSI エンジニアリング)
- (12) 半空間集合の CSG 表現形状データに対する光線追跡アルゴリズムの検討
金 環 垣, 岡田 稔, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大・工)

13:40~16:30 (5 件)

- (13) コンピュータグラフィクスにおける色計算法の検討と干渉色表示への応用
鈴木信雄, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大・工)
- (14) 3 次元画像を利用した股関節手術計画システム
曾山 豊, 安田孝美, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大・工)
- (15) 結像位置を変化させて得た多重画像からのパンフォーカス画像の自動合成法 塩 昭夫 (NTT 通研)
- (16) 偏光を利用した照度差ステレオ法による面の傾き抽出法 伊東敏夫, 松本俊哲 (豊田工大)
- (17) 日立中央研究所におけるコンピュータグラフィクスと画像処理研究
矢島章夫, 藤澤浩道, 松島 整, 江尻正員 (日立)

16:30~17:10

見学：日立中央研究所のコンピュータグラフィクスおよび画像処理・理解に関連する研究施設

※ 今回の研究会は, 電子情報通信学会 (パターン認識と理解研究会) との共催で行います.

◆ 第 4 回 コンピュータと教育研究会

(発表件数：13 件)

(主査：有山正孝, 幹事：大槻説乎, 雨宮幸雄, 竹谷 誠)

日 時 平成元年 2 月 25 日 (土) 午前 10 時~午後 6 時

会 場 九州工業大学 情報工学部 AV 講義室

〔飯塚市川津 680-4, JR (筑豊線)：新飯塚下車, バス：九工大行で 15 分. Tel. 0948(28)5551 ex. 207〕

議 題

10:00~12:00 (4 件)

- (1) 大学向き CMI の研究 (3)
吉川博史, 岩崎重剛, 渡辺寛二 (大阪電通大・短大), 石桁正士 (大阪電通大・工)

植田一広（大阪電通大・経営情報），中村博幸（大阪短大・家政）
秋尾保子（京都文教短大・幼児教育）

〔概要〕 今回は文科系短大，理科系短大と女子短大において職業興味検査を行った。このデータからどのような傾向の違いが出てくるのかなどを考慮しながら分析を行った報告。このようなデータをもちいて大学向き CMI を考えている。

(2) パソコン版やる気データベース 岩崎重剛，吉川博史，石桁正士（大阪電通大・工）
中村博幸（大阪短大・家政），秋尾保子（京都文教短大・幼児教育）

〔概要〕 IGF を用いて学生の勉強意欲（やる気）を調査している。パソコン版やる気データベースを構築した。プライバシーにかかわるデータを格納したものを研究者用やる気データベースという。異調査番号，同一学生の経年変化を報告する。

(3) 用例検索による教育支援システム 堤 豊（日本 IBM），隅田英一郎（ATR）

〔概要〕 日本語教育のために用例検索システムを試作した。このシステムは規則を変更してさまざまな検索要求に答える。

(4) スタンドアロン型教育用ソフトウェアの設計方式 平賀正樹（富士通）

〔概要〕 アセンブラ，Basic そして Mind による，三つの教育用ソフトウェアの設計・開発経験について述べる。

13:00~15:00 (4件)

(5) 夜間短期大学生の勉強意欲Ⅱ 太田 充（大阪電通大・短大），下村 武（大阪電通大・工）

〔概要〕 夜間短期大学生の講義科目における学習意欲に影響をおよぼすものを，アンケート調査を行い解析した結果の報告をする。

(6) 高専におけるパソコンを用いた2変数関数の指導について 緒方 優，肥後昭治（都城工業高専）

〔概要〕 パソコンを用いて2変数関数の指導を行い，あわせて，プロジェクターを利用した場合との比較検討を行った。

(7) 問題学習に関する理論の妥当性とその拡張 矢鳴虎夫（九工大・情報処理センター）

〔概要〕 練習問題を構成する単元の関連度を基本にした問題学習に関する新しい理論について，その妥当性と拡張性を論じる。

(8) オブジェクト指向環境における数式処理 対馬勝英，加賀英徳，植野雅之（大阪電通大・工）

〔概要〕 オブジェクト指向環境に於ける数式処理のユーザインタフェースを分析し，実践の報告と提案を行う。

15:20~17:50 (5件)

(9) 問題解決法ガイダンスシステム ―発見的解法へのアプローチ―

竹谷 誠，中村直人（拓殖大・工）伊藤 靖，寺田文行（早大・理工）

〔概要〕 高校数学を対象に学習者と協調的に問題を解き，学習者に戦略的知識の獲得をガイドするシステムの開発について述べる。

(10) 幾何図形の入力とその内部表現変換のインタフェースに関する研究

永島 聡（東京学芸大・教育），松田 昇（金沢工大・CAI 室），岡本敏雄（東京学芸大・教育）

〔概要〕 幾何学図形を描画するツールと，その図形を幾何学図形を表現する意味ネットワークに変換するシステムを発表する。

(11) ITS におけるシステムの成長機能と指導戦略の関連について―初等幾何合同証明の学習世界において―

松田 昇（金沢工大・CAI 室），岡本敏雄（東京学芸大・教育）

〔概要〕 学習の進展に伴い，システムの学習者に対する認識を変換させ，それに応じた指導戦略を決定する方法を提案する。

(12) 指導方略における定性と定量

野口周一，竹内 章（九大・工），近藤弘樹（佐賀大・理工），大槻説乎（九工大・情報工）

〔概要〕 定性的推論の結果を用いて定量的解析をし，両者の結果を組み合わせで指導する物理的知的 CAI について報告する。

(13) 手続き的教材のための ITS における学生モデル構築と教育戦略

鈴木信夫, 池田 満, 溝口理一郎, 角所 収 (阪大・産研)

〔概要〕 手続き的知識が持つ特長を活かした学生モデル構築方法とそれを効率よく教育する対話方略について述べる。

※ 今回の研究会は, CAI 学会との共催で開催されます。

◆ 第 23 回 文書処理とヒューマンインタフェース研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 木村 泉, 幹事: 角田博保, 黒須正明, 首藤正道)

日 時 平成元年 3 月 8 日 (水) 午後 1 時~5 時半

会 場 富士ゼロックス 本社 2 F 講堂

〔東京都港区赤坂 3-3-5, 地下鉄: 丸ノ内線, 銀座線の赤坂見附下車, 外堀通りを虎ノ門方面に徒歩約 3 分, 山王日枝神社の斜め向い, 地下鉄千代田線: 赤坂下車, 徒歩約 3 分. Tel. 03 (585) 3211〕

議 題

(1) プロダクションシステムに基づいたユーザインタフェース管理システム 官崎一哉 (三菱電機)

〔概要〕 対話制御部にプロダクションシステムを適用して構築したユーザインタフェース管理システムについて述べる。

(2) 図を用いた思考展開における文章化支援 一図式エディタ PAN/KJ の場合一

森田哲司, 河合和久, 大岩 元 (豊橋技科大・情報工学)

〔概要〕 カード操作により図解を構築するエディタにおいて, 図解から文章を組み立てる過程の支援について述べる。

(3) 文書作成時における論理構造生成支援法の検討

小林直樹 (NTT 通研)

〔概要〕 文書作成時において, 数量化理論による文書単位情報の分類統合を用いた文書論理構造生成法の提案・実験を行う。

(4) 文書プログラミングについての一考察

京嶋仁樹, 上林憲行 (富士ゼロックス), N. V. Gopal (富士ゼロックス情報システム)

〔概要〕 オフィス文書処理の領域におけるカスタマイゼーションとしての“文書プログラミング”について考察する。

16:30~17:30

見学: 富士ゼロックス(株)のドキュメントマネジメントセンター

※ 今回の研究会は, 電子情報通信学会 (オフィスシステム研究会), 日本ソフトウェア科学会 (ヒューマン・インタフェース研究会) との共催で開催されます。

◆ 第 28 回 ソフトウェア基礎論研究会

(発表件数: 9 件)

(主査: 佐藤雅彦, 幹事: 柴山悦哉, 田中二郎, 萩野達也)

日 時 平成元年 3 月 10 日 (金) 午前 10 時~午後 5 時 20 分

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, JR: 浜松町下車, バス: 渋谷ー東京タワー線東京タワー, 渋谷ー東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車. Tel. 03 (434) 8211〕

議 題

(1) マルチウィンド・エディタシステムのオブジェクト指向仕様記述法

堀川英明, 田山典男 (岩手大・工)

〔概要〕 状態遷移と刺激応答と相互関係の各モデルを融合してエディタのオブジェクト指向仕様記述法を提示する。

(2) 対象物一関係モデリングをベースとした知的プログラミング環境

間野暢興 (電総研)

〔概要〕 対象物一関係情報表現形式の知的プログラミングシステムにおいて実現可能な機能とシステム管理方式を述べる。

(3) 並列プログラム変換可視化システム VISTA における可視化技術について

奥村 晃, 藤田 博, 上田和紀, 長谷川隆三 (ICOT)
吉田紀彦 (九大・工), 相川聖一, 小野越夫 (富士通)

〔概要〕 ビットマップディスプレイを用いて GHC プログラムの実行過程を視覚化する技術について述べる.

(4) GHC のデバッグに関する考察 前田宗則, 魚井宏高, 都倉信樹 (阪大・基礎工)

〔概要〕 GHC で記述されたパイプ処理やプロセスの概念に基づくプログラムを対象とするデバッグを考慮した.

(5) 論理型プログラムの Unfold/Fold 変換におけるより強い等価性の保存 (II)

金森 直, 川村 正 (三菱電機・中研)

〔概要〕 玉木-佐藤の Prolog プログラムの Unfold/Fold 変換によって得られるプログラムは, どのようなトップレベルのゴールに対しても, 初期プログラムと同じ解を同じ回数だけ返すことを証明する.

(6) CCFG と属性文法における展開/畳込み変換 山下義行, 中田育男 (筑波大・電子情報工学系)

〔概要〕 文脈自由文法に基づく計算モデルでは関数, 論理プログラムと同様に展開/畳込み変換が定義できることを例題とともに明らかにする.

(7) グラフ還元とデータ構造 杉藤芳雄 (電総研)

〔概要〕 組み合わせ子 (combinator) のグラフ還元 (reduction) による評価において, グラフのデータ構造の差異がグラフ還元及ぼす影響を中心に検討する.

(8) プログラムテストに用いるパスジェネレータへのグラフ理論の応用研究 柳沢隆夫 (芝浦工大)

〔概要〕 プログラム解析による最適なテストデータの作成へ, グラフ理論を応用する問題をさらに一考察する.

(9) 動作ルーチン方式のソフトウェア生成系への新しい応用 管 淳子, 松野浩樹, 徳田雄洋 (東工大・工)

〔概要〕 属性文法方式と異なる意味付け方式である動作ルーチン方式の新しい応用について述べる.

* 今回の研究会は電子情報通信学会 (ソフトウェアサイエンス研究会), 日本ソフトウェア科学会 (プログラム合成/変換研究会) との共催で開催されます. 上記会告は, 1 月 20 日現在の申込みによるもので, プログラムは暫定的なものです. 上記期日以降の申込み分を含めた最終的なプログラムは電子情報通信学会誌 2 月号に掲載されますのでご了承ください.

◆ 第 41 回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 松下 温, 幹事: 浦野義頼, 山崎清明, 若山博文)

日 時 平成元年 3 月 13 日 (月) 午前 10 時半~午後 5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 特集: オブジェクト指向システムと分散処理

10:30~12:00 (2 件)

(1) 分散オブジェクトの記述とそのスレッドによる表現について 岸田 一, 鈴木 茂, 奥井俊行 (沖電気)

〔概要〕 分散 AP 開発支援のための実験システムの開発について報告する. これは, オブジェクトの定義を特定の記述言語で行った後, それをスレッドによって実現し, 生成されるオブジェクトをネットワーク上に分散したものである.

(2) 平行オブジェクト指向言語を用いた待ち行列シミュレーション

吉田隆一 (九工大・情報工学) 所真理雄 (慶大・理工)

〔概要〕 平行オブジェクト指向言語を用いた分散型の待ち行列シミュレーション・システムの実現法について述べる.

13:00~17:00 (5 件)

(3) RPC を意識した利用者確認システムの開発 山口 英, 菱川 薫, 宮原秀夫 (阪大・基礎工)

〔概要〕 RPC への適用を考慮してネットワーク上で通信内容の保全と利用者の認証が行えるシステムを提案する.

(4) 分散オブジェクト指向システム O²NE 下條真司, 藤川和利, 宮原秀夫 (阪大・基礎工)

〔概要〕 分散処理システム上の資源などをオブジェクトと考え利用者が, ネットワークを意識しない環境 O²NE の提案を行う.

(5) 分散処理システムの機能要求定義

菅原研次, 福島 学 (千葉工大・電子情報工学), 木下哲男 (沖電気) 白鳥則郎 (東北大)

〔概要〕 知識モデルに基づいて分散処理システムの機能要求を定義する方式について述べる。

(6) オブジェクト指向型サービスベース・システムに基づく分散環境 何 千山, 田中英彦 (東大・工)

〔概要〕 オブジェクト指向サービスベース・システムの構成とその標準プログラミング, ユーザ・インタフェースについて述べる。

(7) 知的分散 OS の分散管理アルゴリズム

関 俊文, 岡宅泰邦, 田村信介 (東芝)

〔概要〕 知的分散 OS に実装しているデッドロック管理と故障管理機構の分散アルゴリズムについて述べる。

◆ 第 63 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数: 10 件)

(主査: 諏訪 基, 幹事: 中島秀之, 西田豊明, 原口 誠)

日 時 平成元年 3 月 13 日 (月) 午後 1 時~5 時 15 分

3 月 14 日 (火) 午前 10 時~午後 5 時 15 分

会 場 機械振興会館 地下 3 階 研修 1 号室 (所在地は前記参照)

議 題

3 月 13 日 (月) 13:00~17:15 (4 件)

(1) 一般プログラムにおける否定の意味論

萱島 信, 中川裕志 (横浜国大・工)

〔概要〕 ある種のレベル付けを行った一般プログラムに対し, その宣言の意味と手続きの意味の考察を行った。

(2) 完全モデル意味論に基づく例外の極小化

董 方清, 中川裕志 (横浜国大・工)

〔概要〕 完全モデル (perfect model) に基づいて例外を極小化するモデル意味論と推論手続きについてのべる。

(3) モデル論的考察による ATMS の一般化

井上克己 (ICOT)

〔概要〕 仮説推論のモデル論的考察に基づき ATMS を一般化し, 興味深い例の呈示と数々の拡張例の論理的再構築を行う。

(4) 要求仕様における動作制約の部分性

中島俊介, 橋本正明, 門田充弘 (ATR)

〔概要〕 システムの動作に関する要求仕様において, 部分的な状況記述を前提とする解釈方法について考察する。

3 月 14 日 (火) 10:00~12:00 (2 件)

(5) 集合の概念に基づくフレームの拡張

吉良賢治, 三石彰純, 辻 秀一 (三菱電機)

〔概要〕 集合の概念に基づきフレームモデルを拡張する試みについて, 知識表現および推論の角度から考察する。

(6) 知識ベースにおける動詞的概念の表現法

佐々木泰, 岡田和久, 高田正之, 小谷善行 (農工大・工)

〔概要〕 動詞的概念のクラスを格支配構とデモンにより知識ベース上に表現した。動作間の因果関係に着目する。

13:00~17:15 (4 件)

(7) 問題の簡約可能性に着目した不定積分法の学習

白井 豊, 白石圭子, 小野典彦, 翁長健治 (広島大・工)

〔概要〕 置換・部分積分が施す式の簡約化に基づき, 不定積分のマクロオペレータ獲得法を提案する。

(8) プランニング過程の類似性に基づく類推的問題解決

山口智治, 白石圭子, 小野典彦, 翁長健治 (広島大・工)

〔概要〕 過去のプランニング過程において適用された目標, 計画等の類似性に基づく類推的問題解決機構を提案する。

(9) 拡張されたロジック・プログラムの理論Ⅱ

赤間 清 (北大・文)

〔概要〕 I に引続いて拡張されたロジック・プログラムの理論を展開し, SLD 導出の完全性・極大 SLD 導出などについて論じる。

(10) 拡張されたロジック・プログラムの理論Ⅲ

赤間 清 (北大・文)

〔概要〕 縮小系を作る枠組み (縮小生成系や制約付加) について議論し, 理論を文字列領域や制約付変数などに適用する方法を示す。

◆ 第70回 データベース・システム研究会

(発表件数：6件)

(主査：牧之内顕文，幹事：大里博志，清水 康，佐藤和洋)

日 時 平成元年3月14日(火) 午後1時～5時

会 場 機械振興会館 地下3階 研修 2号室(所在地は前記参照)

議 題

一般講演(1件)

- (1) 先読みスケジューラの性能評価

河添博之(QUICK)

〔概要〕 先読みスケジューラの実現方法と性能評価に関する結果について報告する。

小特集：ビジュアルインタフェース(5件)

- (2) データベースのユーザフレンドリインタフェース MELQUERY の拡張

中川路のぞみ，金森卓郎，和田雄次，石田喬也(三菱電機)

〔概要〕 DBMS のユーザインタフェース MELQUERY における絞り込み検索，表計算などの拡張機能について報告する。

- (3) マルチメディア画像対話型データベース —TRADEMARK と ART MUSEUM—

加藤俊一，下垣弘行，栗田多喜夫，坂倉あゆみ，水島哲也，市川 充(電総研)

〔概要〕 商標・意匠データベースおよび絵画データベースにおける画像対話機能とシステム構成を紹介する。

- (4) オブジェクト指向データベースシステムのためのアイコニック・ブラウザ

堀尾祥久，津田和幸，平川正人，田中 稔，市川忠男(広島大・工)

〔概要〕 オブジェクトの検索を視覚的に行うためのアイコニックブラウザについて述べる。

- (5) マルチメディア文書 DB の利用者インタフェース

平野文康(日電)

〔概要〕 ドキュメント作成支援システムにおけるマルチメディア文書 DB の視覚インタフェースについて述べる。

- (6) 視覚情報を用いた RDB 検索システム：OBAQ

加藤哲朗，鈴木幸市(NTT データ通信)

〔概要〕 以前，本研究会で紹介した視覚情報による RDB の検索システム OBAQ の変更点／評価を中心に報告する。

◆ 第52回 記号処理研究会

(発表件数：4件)

(主査：中西正和，幹事：井田昌之，小川貴英，小谷善行)

日 時 平成元年3月14日(火) 午後1時～5時

会 場 NTT 武蔵野研究開発センター 6号館 302号室

〔武蔵野市緑町 3-9-11, JR(中央線)：三鷹(北口)下車，関東バス(1番乗場)：北裏行(便多数)武蔵野市役所前下車，徒歩5分。Tel. 0422(59)3083〕

議 題

- (1) Pointer-Linked Data における仮想記憶管理の1手法

前川博俊，安田弘幸，沢田佳明，榎本隆昭，實藤隆則，三澤誠一，福田譲治(ソニー)

〔概要〕 リスト構造の特徴を生かして仮想記憶処理効率を向上させるために記憶管理方式(SOSO)について述べる。

- (2) オブジェクト指向型 Lisp. Euslisp のインプリメンテーションと幾何モデラへの応用

松井俊浩(電総研)，稲葉雅幸(東大・工)

〔概要〕 オブジェクト指向をベースにした Lisp の上に拡張性の高い幾何モデリングシステムが構築できることを示す。

- (3) TAO/ELIS における論理型プログラムのコンパイラ

山崎憲一(NTT 通研)

〔概要〕 マルチパラダイム言語 TAO の論理型パラダイムのコンパイラを開発した。本コンパイラはインタプリタとの互換性を最も重視したためインタプリタ並みのデバッグ効率を持つ。

- (4) Lisp マシン SYNAPSE を用いた分散処理環境の構築

田中良夫(慶大・理工)

〔概要〕 UNIX マシンと LISP マシンをネットワークでつなぎ，LISP に関する機能分散を実現する。

◆ 第 28 回 数値解析研究会

(発表件数：6 件)

(主査：名取 亮，幹事：関口智嗣，野寺 隆，福井義成)

日 時 平成元年 3 月 14 日 (火) 午後 1 時半～5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)
議 題 特集：スーパーコンピューティングと並列処理について

(1) 代数方程式と大域的解法

五十嵐正夫 (日大・農獣)

〔概要〕 全根同次解法の色々について，そのルーツと数値実験の結果について発表する。

(2) 並列計算による多次元データの近似 スプライン関数を用いた補間と平滑化

吉本富士市 (明石工業高専)

〔概要〕 B-スプラインの並列計算，多次元データの近似の並列計算，および並列計算上の 2，3 の問題について述べる。

(3) 有限要素法での行列作成ルーチンのベクトル/パラレル

寒川 光 (日本 IBM)

〔概要〕 有限要素行列の作成と重ね合せルーチンをベクトル化，パラレル化によって高速化する手法を考察する。

(4) CRAY におけるマルチタスキング機能

斎藤 務 (日本クレイ)

〔概要〕 CRAY スーパーコンピュータによる並列処理機能を例を混えて概説する。

(5) ベクトル計算機による並列処理のシミュレーション

福井義成，吉田浩俊 (東芝 CAE システムズ)，肥後野恵史 (東芝)

〔概要〕 複雑な条件分岐をもつプログラムを並列処理的な考え方を用いてベクトル計算機で実行する。

(6) DK 法の誤差評価とその応用

山本哲朗，陳 小君 (愛媛大・理)

〔概要〕 代数方程式に対する DK 法の新しい誤差評価とその数値実験結果について報告する。

◆ 第 23 回 情報システム研究会

(発表件数：4 件)

(主査：伊吹公夫，幹事：岩丸良明，鷹野 澄，楳木公一)

日 時 平成元年 3 月 14 日 (火) 午後 1 時半～5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
議 題 特集：金融情報システムについて

(1) 金融情報システムの現状と展望

福井和夫 (金融情報システムセンター)

〔概要〕 金融機関の機械化の変遷，システム開発の現状と展望，システム化にともなう諸問題について，ユーザの立場から解説をする。

(2) 銀行システムの発展と展望 三井銀行の事例一

森田道寛 (三井銀行)，岩丸良明 (三井銀総研)

〔概要〕 銀行システムの発展の経緯を総括し，現状と今後の展望について，三井銀行の事例をもとに概説する。

(3) 証券における営業店システムの現状と今後の課題

平沢政人 (日興システムセンター)

〔概要〕 日興証券は，63 年 3 月に第三次の一環として営業店システムを稼働させた。その狙い，概要，今後の課題を説明する。

(4) 日銀ネットの稼働について

江森剛文 (日本銀行)

〔概要〕 88 年 10 月央に稼働を開始した日銀ネットについて，その狙い，概要，今後の展望などを説明する。

◆ 第 71 回 自然言語処理研究会

(発表件数：9 件)

(主査：田中穂積，幹事：田中裕一，徳永健伸，内藤昭三)

日 時 平成元年 3 月 18 日 (土) 午前 10 時～午後 5 時
会 場 京都大学 工学部 電気系教室 新 1 講義室 (北館 4 階)

〔京都市左京区吉田本町，JR：京都下車，市バス：17，特 17，203 系農学部前下車，徒歩 2 分，または百万遍下車，徒歩 5 分。Tel. 075 (753) 5347 (中村)〕

議 題

10:00～12:00 (3 件)

(1) 制約蓄積による増進的曖昧性解消モデル

奥村 学，田中穂積 (東工大・工)

〔概要〕 ユニフィケーションを拡張することにより、意味的曖昧性を増進的に解消するモデルについて述べる。

(2) 共起関係に着目した動詞分類について

荻野孝野, 山本由起雄, 清野正樹, 縄田路子, 内田裕士 (日本電子化辞書研)

〔概要〕 動詞と共起する格要素との関係を記述し、動詞の概念分類のためのパターン抽出を試みるものである。

(3) 動詞意味機能に基づく深層格パターンの自動設定

石川徹也 (情報大・図書館情報), 坂本義行 (電総研)

〔概要〕 機械翻訳システムなど自然言語処理用辞書の更新支援システム機能として、標記システム機能について述べる。

13:00~17:00 (6件)

(4) 日本語語彙の代数構造と機械翻訳への応用

北村 博 (日本 IBM)

〔概要〕 助詞・接続詞・形式名詞等および、それらの複合表現を日英機械翻訳で統一的に処理可能であり、その基礎も含め発表する。

(5) カオス神経回路網による意味概念空間の構成と利用について

—ニューロンネットワークによるシソーラス—

津田一郎, 野村浩郷 (九工大・情報工)

〔概要〕 シソーラスの構築と利用にニューロンネットワークの上でのカオス理論を応用。

(6) 多言語翻訳のための中国語辞書

朱 美 英, 内田裕士 (CICC)

〔概要〕 中間言語方式による機械翻訳のための中国語解析・生成用中国語電子化辞書の構成および利用について述べる。

(7) 等位構造および二重現象と機械翻訳

村田忠男 (九工大・工)

〔概要〕 数種の日英翻訳ソフトをテストした結果、等位構造関連および二重現象について前／後処理の自動化を論じる。

(8) 視点を考慮した概念の同一化とその応用

徳永健伸, 岩山 真, 田中穂積 (東工大・工)

〔概要〕 上位／下位関係に基づく概念体系に視点を導入し、視点を含む概念間の同一化と応用について述べる。

(9) オンライン辞書定義文の解析と知識ベース化

酒井桂一, 中村順一, 長尾 真 (京大・工)

〔概要〕 英語辞書の定義文を構文解析し、見出し語を記述する意味ネットワーク構造を抽出する方法について報告する。

◆ 第 6 回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 野崎昭弘, 幹事: 西関隆夫, 中村勝洋, 今井 浩)

日 時 平成元年 3 月 22 日 (水) 午前 9 時~午後 12 時 10 分

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) プログラムテストに用いるパスジェネレータへのグラフ理論の応用研究

柳沢隆夫 (芝浦工大)

〔概要〕 プログラムテストパスの導出法にグラフ理論を応用して効率的なアルゴリズムを設計する問題をさらに一考察する。

(2) 2-パスの最適普遍グラフ

上野修一, 北角智洋 (東工大・工)

〔概要〕 任意の 2-パス (一種の 2-木) を部分グラフとして含むグラフでオーダ的に枝数が最小であるものの一構成法を示す。

(3) The C-Oriented Polygon Intersection Problem

譚 学 厚, 平田富夫, 稲垣康善 (名古屋大・工)

〔概要〕 辺の方向が C 種類の n 個の多対形に対し、交わる対をすべて報告する最良なアルゴリズムを与える。

(4) Finding homomorphically irreducible spanning trees

Mike O. Albertson (Smith College)

〔概要〕 与えられたグラフに次数 2 の点がない全域木があるかどうか決定する問題を (斜影) 平面グラフに対して解く。

(5) 第 10 回 Computational Geometry Day の報告

今井 浩 (九工大・工)

〔概要〕 標題について報告する。

* 今回は電子情報通信学会（コンピュテーション研究会）で、午後に同会場で4, 5件の発表を行います。詳細は電子情報通信学会誌2月号をご覧ください。

◆ 第59回 コンピュータビジョン研究会

（発表件数：6件）

（主査：鳥脇純一郎，幹事：大田友一，田島譲二）

日時 平成元年3月23日（木）午後1時～6時

会場 東京大学 生産技術研究所 第1会議室

〔東京都港区六本木 7-22-1, 地下鉄（千代田線）：乃木坂下車，徒歩1分，または地下鉄（日比谷線）：六本木下車，徒歩5分。Tel. 03 (402) 6231 ex. 2645 坂内研究室〕

議題

13:00～17:15（6件）

（1） Rainbow Range Finder による距離計測実験 岩川正人，田島譲二，本山純四郎（日電）
〔概要〕 Rainbow Range Finder により距離計測実験を行い，人体計測に要求される高速性と精度を達成する見通しをた得た。

（2） 時系列ステレオ画像の対応探索 松田伸広，大田友一（筑波大・電子情報工学系）
〔概要〕 時系列ステレオ画像において，カルマンフィルタを用いて対応の予測，および対応結果の累積を行う。

（3） 構造線による3次元自由曲面の記述 田中弘美，李 大 力，小林幸雄（ATR）
〔概要〕 曲面の曲率変化構造を表わす解析曲線である「構造線」を用い，一般自由曲面の大局的な凹凸構造を記述する方法を述べる。

（4） 人物像等に適したエッジ画像の算出とそのエッジ線抽出 柳 修，若山忠雄（NTT 技術移転），宮田 努（NTT 通研）
〔概要〕 人物像などに適した合成型エッジ検出法を提案し，そのエッジ画像からエッジ線を求める尾根線追跡法を論ずる。

（5） 物体のカラー反射モデルの検討 富永昌治（大阪電通大・工）
〔概要〕 種々の物体表面の光反射特性を調べ，反射モデルの妥当性を判定する実験的手法について述べる。

（6） カラーデザインのための色変更アルゴリズム 田島譲二，麦谷孝子（日電）
〔概要〕 カラー画像に含まれる物体の色を自然に変更するための，光の反射・透過のモデルを利用したアルゴリズムを提案する。

17:15～18:00

見学：画像関係研究室

◆ 第67回 計算機アーキテクチャ研究会

（発表件数：3件）

（主査：田中英彦，幹事：喜連川優，長谷川隆三，横田 実）

日時 平成元年3月23日（木） 午後2時～5時

会場 機械振興会館 地下3階 2号室（所在地は前記参照）

議題

（1） 並列処理システム一晴一におけるフローグラフ展開の評価 萩原 孝，山名早人，神館 淳，村岡洋一（早大・理工）
〔概要〕 一晴一の仮実行方式の一手法であるフローグラフ展開についてその基準及び実現方法を述べ，評価する。

（2） 大規模データフローマルチプロセッサシステムの性能評価シミュレーション手法 山田茂樹，伊藤敏夫（NTT 通研）
〔概要〕 大規模データフローシステムの性能評価シミュレーションを少量のメモリで高速に行える一方式を提案する。

（3） 前向きプロダクションシステムのための要求駆動型マッチングアルゴリズム 藤田 聡，介込達哉，山下雅史，阿江 忠（広大・工）
〔概要〕 前向きプロダクションシステムを高速化するための要求駆動型マッチングアルゴリズムの提案と評価を

行う。

* IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

◆コンピュータと教育研究会

第5回 研究発表会は5月11日(木)、東京で開催の予定です。

発表ご希望の方は、研究会発表申込書(本欄末添付)に発表題目と50字以内の概要を記入して、学会事務局研究会担当までお申し込みください。

◆データベース・システム研究会, オペレーティング・システム研究会合同研究会

近年、DB と OS の両分野は、分散処理、高トランザクション処理、セキュリティ、リカバリ等で相互関連が深まりつつあります。そこで、両分野の研究者、技術者の相互認識を深め合い、今後の連携と相互促進を図るため、下記の要領で合同研究会を開催いたします。広く発表を募集いたしますので、奮ってご応募ください。

記

日 時 平成元年9月8日(金) 9:50~17:00
 会 場 機械振興会館 地下3階 研修1号室
 テーマ データベース、オペレーティングシステムの両分野に関わるテーマはもとより、単独でも相互に有益な刺激となりうるテーマも広く募集します。
 主なテーマ ー分散 OS/分散 DB, オブジェクト指向 OS/オブジェクト指向 DB, DB 専用 OS, アクティブ DB, 知識ベースマシン
 ー新しい OS アーキテクチャ/新しい DB アーキテクチャ
 ーDBMS・OS 間インタフェース, DB 性能向上, 共用 DB 制御, セキュリティ, ノンストップサービス, システム記述言語
 ーその他

発表申込方法 研究会発表申込用紙(本欄末添付)に発表題目と50字以内の概要を記入し、学会事務局研究会担当までお申し込みください。

発表申込締切 平成元年5月31日(水) 必着

◆ソフトウェア基礎論研究会

今後の活動予定は以下の通りです。

5月19日(金)、豊橋技術科学大学、電子情報通信学会(コンピュテーション研究会)と共催(予定)

9月8日(金)、機械振興会館、電子情報通信学会(ソフトウェアサイエンス研究会)と共催(予定)

発表ご希望の方は、研究会発表申込書(本欄末添付)に発表題目と50字以内の概要を記入して、学会事務局研究会担当までお申し込みください。

◆平成元年度 研究発表会5・6月開催予定

自然言語処理	5月19日(金)	日本電子化辞書	6月29日(木)・30日(金) 琉球大
データベース・システム	5月18日(木)	情報大	
知識工学と人工知能	5月18日(木)・19日(金)	機・B3-2	
記号処理	6月16日(金)	慶大	
ソフトウェア工学	5月30日(火)	機・B3-2	6月27日(火) 機・B3-2
マイクロコンピュータとワークステーション	5月16日(火)	機・B3-9	6月27日(火) 機・B3-1
計算機アーキテクチャ	5月12日(金)	機・B3-1	
オペレーティング・システム	6月9日(金)	機・6-65	
コンピュータビジョン	5月18日(木)	豊橋技科大	
設計自動化	5月23日(火)	機・B3-2	
マルチメディア通信と分散処理	5月19日(金)	徳島大	
ヒューマンインタフェース	5月15日(月)	機・B3-1	

グラフィクスとCAD	5月12日(金)	東大
ソフトウェア基礎論	5月19日(金)	豊橋技科大(電子情報通信学会と共催)
情報システム	5月15日(月)	機・B3-2
プログラミング言語	6月	東京
情報学基礎	6月2日(金)	機・B3-1
コンピュータと教育	5月11日(木)	東京
アルゴリズム	5月22日(月)	機・B3-研1 6月23日(金) 名大
人文科学とコンピュータ	5月19日(金)	国立民族学博物館

* 各研究会に発表申込希望者は開催の3カ月前までに、研究会発表申込書(本欄末添付)を事務局研究会係までご送付ください。

注) 機一機械振興会館

創立 30 周年記念論文の公募について

情報処理学会では創立 30 周年を記念して、下記により「記念論文」を公募することになりました。会員の皆さまは奮って応募されますようご案内いたします。

1. 応募資格

情報処理学会の会員(正会員、学生会員、海外会員)であること。共著可。

2. 論文の性格と書き方

ア. 情報処理に関するオリジナルな論文であること。

イ. 論文は邦文または英文とする。

ウ. 邦文論文は「情報処理学会論文誌原稿執筆案内」、英文論文は「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」の書き方にそれぞれよることとするが、制限ページはいずれも刷り上り B 5 判 12 ページとする。したがって英文論文の場合「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」には“刷り上り 1 ページは、通常のテキストでは 1,000 語程度”とあるが、本記念論文の場合は 620 語程度となるので注意のこと。ただし、論文はできるだけ簡潔にまとめることが望ましい。

3. 応募方法

ア. 正論文 1 部およびコピー 5 部を提出すること。

イ. 応募論文の第一ページ標題の左肩に「創立 30 周年記念論文」と明記すること。

ウ. 締切 1989 年 8 月 31 日

エ. 送付先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F
(社)情報処理学会事務局 「創立 30 周年記念論文係」

4. 応募論文の取扱い

ア. 応募論文は記念論文査読委員の査読結果に基づき、拡大論文誌編集委員会で受賞論文の候補を決定する。原則として論文を著者に照会することはしないが、受賞決定後に執筆について助言することがある。

イ. 記念論文選定委員会は 10 編を限度として受賞論文を選定する。受賞論文のうち、特に優秀なもの 3 編以内を入選論文とし、そのほかを佳作論文とする。

ウ. 選定結果は「創立 30 周年記念式典」において公表し、受賞論文の表彰をおこなう。

エ. 受賞論文は「創立 30 周年記念学会誌」に掲載し、また「1990 年後期全国大会」において講演発表する。

オ. 受賞しなかった論文は著者の希望により一般論文扱いとする。

5. 表彰

ア. 受賞論文のすべての著者に対して表彰状および記念品を授与し、受賞論文ごとに賞金を授与する。

イ. 受賞論文 1 編につき論文別刷 100 部を贈呈する。

6. その他

不明の事項については、本学会事務局に問い合わせること。

平成元年度 役員の選挙について

本会定款第 20 条にもとづき、来る 5 月 18 日（木）開催の第 31 回通常総会をもって本年度（昭和 63 年度）役員の半数が退任されます。したがって来年度役員の選挙は、2 月中旬に別途送付される投票用紙（往復はがき）により行われます。正会員各位は下記の要領により、同投票用紙にてもちろん投票をお願いいたします。

投票用紙記載の候補者は、有権者の参考にとつて、本会理事会が推薦したものです。この候補者の中から選定される場合は、下記の候補者名簿をご参照のうえ、「選定欄」に○印を付けてください。ただし、これらの候補者以外の会員（正会員に限る）を選定される場合は、それぞれの区分の空欄に氏名、所属をご記入ください。

記

1. 別送の投票用紙（返信はがき）の選定欄に○印をおつけください。
2. 会長ならびに副会長はそれぞれ 1 名の単記、理事は、業務担当では〔教育／研究〕、〔製造・販売(A)〕、〔製造・販売(B)〕、〔利用〕の各分野別に 1 名の単記、編集担当では〔教育／研究〕、〔分野不問〕の各分野別に 2 名以内の連記、監事は 1 名の単記とし、これをこえた場合には無効とします。
3. 改選定数は、会長 1 名、副会長 1 名、理事 8 名、監事 1 名です。
4. 投票の締切は平成元年 3 月 6 日（月）の郵便消印があるものまで有効といたします。
5. 投票用紙（はがき）は料金受取人払ですから、切手を貼付する必要はありません。
6. 投票用紙記載の候補者は 50 音順です。
7. 1 月 14 日現在で本年度会費未納者には投票用紙は送付いたしません。

平成元年度 役員改選候補者名簿

(平成元年 1 月末現在)

役職名	候補者氏名	出身学校 卒業年次(昭和)	勤務先および役職名
会 長	三 浦 武 雄	京 大 24	日立製作所専務取締役
副会長	戸 田 巖	東 大 31	NTT 常務取締役研究開発技術本部長
	和 田 英 一	東 大 30	東京大学工学部教授
理 事 (業務担当)	〔教育／研究〕	上 林 彌 彦	九州大学工学部教授
		田 中 穂 積	東京工業大学工学部教授
		古 川 康 一	新世代コンピュータ技術開発機構研究所研究担当次長
	〔製造・販売(A)〕	市 川 照 久	三菱電機情報電子研究所知識処理開発部長
		上 原 貴 夫	富士通研究所情報処理研究部門長代理
		國 井 秀 子	リコー所長兼部長研究員
	〔製造・販売(B)〕	藏 田 昭	日本トラフィックコンピューターセンター 代表取締役社長
		西 和 彦 夫	アスキー取締役社長
		横 井 俊 夫	日本電子化辞書研究所長
	〔利用〕	伊 藤 宏	しんきん情報システムセンター専務取締役
		小 野 欽 司	KDD 上福岡研究所長
		竹 井 大 輔	鉄道情報システム中央システムセンター所長

役職名		候補者氏名	出身学校 卒業年次(昭和)	勤務先および役職名
理事	〔教育／研究〕	所 真理雄 苗 村 憲 司 益 田 隆 司 溝 口 文 雄	慶 大 45 東 大 37 東 大 38 東 理 大 41	慶応義塾大学工学部助教授 NTT 技術情報センタ所長 東京大学理学部教授 東京理科大学工学部教授
	〔分野不問〕 〔編集担当〕	上 村 務 齊 藤 忠 夫 千 葉 常 世 発 田 弘	東 大 46 東 大 38 京 大 37 東 大 38	日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所 プログラム言語担当 東京大学工学部教授 日立製作所中央研究所企画室主管研究員 日本電気情報処理製品計画本部長代理
監 事		辻 岡 健 和 渡 部	大 阪 府 立 大 29 京 大 28	情報処理振興事業協会シグマシステム開発本部長 日本電気支配人

(五十音順)

〔参 考〕

平成元年度留任役員名簿

役 職 名	氏 名	勤 務 先
副 会 長	野 口 正 一	東 北 大
理 事	池 田 克 夫	京 大
理 事	板 倉 征 男	NTT データ通信
理 事	遠 藤 誠	日 立 大
理 事	白 井 良 明	阪 大
理 事	堂 下 修 司	京 大
理 事	三 木 彬 生	鉄 道 総 研
理 事	村 井 真 一	三 菱 研
理 事	矢 島 敬 二	日 科 技 研
理 事	山 田 昭 彦	日 電
監 事	澁 谷 多喜夫	富 士 通

退任役員名簿

役 職 名	氏 名	勤 務 先
会 長	大 野 豊	ASTEM 研
副 会 長	石 井 善 昭	日 電
理 事	牛 島 和 夫	九 大
理 事	黒 川 恒 雄	工 学 院 大
理 事	小 泉 寿 男	三 菱
理 事	鈴 木 則 久	日 本 I B M
理 事	田 中 英 彦	東 大
理 事	堂 免 信 義	日 立
理 事	橋 本 昭 洋	N T T 研
理 事	三 吉 健 滋	構 造 研
監 事	山 田 尚 男	東 大

平成元年度研究会のお知らせ

平成元年度は、下記のとおり **21 研究会（新設＊1 研究会）**で行います。

- 年間をとおして参加の場合は登録をお願いします。（ただし、**本学会員に限る.**）
- 登録されていない会員は研究会当日資料代 ￥ 1,000（学生 ￥ 500）をいただきます。
（ただし、部数に制限があります。）

＊ 新設

研 究 会 名		○主 査 幹 事	取り扱う研究分野の例
1	自然言語処理	○田中 穂積 田中 裕一 徳永 健伸 内藤 昭三	言語理論, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 談話理解, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2	データベース・システム	○牧之内顕文 大里 博志 清木 康 佐藤 和洋	基礎理論, モデル, 設計, 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB プロセッサ, アーキテクチャ, マルチメディア処理, オフィスシステム, CAD DB, 知能 DB, 知識ベース, インタフェース
3	知識工学と人工知能	○諏訪 基 中島 秀之 西田 豊明 原口 誠	問題解決, 推論, 探索, 類推, 学習, 認知過程 (思考, 記憶, 神経回路網), 認知モデル, 知識表現, 知識ベース, 知識獲得, エキスパートシステム, パターン理解, 自然言語理解, AI アーキテクチャ, 応用人工知能
4	記号処理	○中西 正和 井田 昌之 小川 貴英 小谷 善行	・Lisp, Prolog, オブジェクト指向言語, LOGO 等記号処理言語の処理系, 言語仕様等に関する研究・エディタ, ウィンドウシステム, ネットワーク等, プログラミング環境・数式処理とそのシステムに関する研究・人工知能のための処理システムに関する研究
5	ソフトウェア工学	○原田 賢一 永田 守男	設計技法, 形式的仕様・プログラム図式, 試験・検証, ツール・開発支援環境, 再利用・プログラム合成, ソフト生産用エキスパートシステム, 管理, メトリックス, 信頼性, 標準化, 人間要因・教育
6	マイクロコンピュータとワークステーション	○若鳥 陸夫 氷治 義弘 森本 陽二 山田 剛	1. マイクロコンピュータとワークステーションの構成・ハードウェア 2. マイクロコンピュータとワークステーション用の操作系 3. マイクロコンピュータとワークステーション用の言語及び言語処理系 4. マイクロコンピュータとワークステーションの応用 (教育, 研究, 計測, ロボット, 事務, 卓上出版, 通信)
7	計算機アーキテクチャ	○田中 英彦 喜連川 優 長谷川 隆三 横田 実	計算機システムの設計・機械・制御技術, ファームウェア技術, VLSI 向きアーキテクチャ, 応用指向・問題向きアーキテクチャ, 各種並列処理アーキテクチャ
8	オペレーティング・システム	○亀田 壽夫 川島幸之助 村松 洋	OS の基礎・構造論, 人間工学的側面, プログラミング環境, 分散・並列処理 OS, システム性能評価, 信頼性, 関連するコンピュータシステムの諸問題
9	コンピュータビジョン	○鳥脇純一郎 大田 友一 田島 謙二	視覚から入力される画像や物体などに対する情報処理研究の発表の場であり, これを通じて我が国における研究の向上とその育成, 並びに, 研究者間の交流を推進する. 具体的な研究範囲は, 画像処理, ロボットビジョン, 視覚系モデル, 物体認識, 動画像解析, 画像データベースである.
10	設計自動化	○平川 和之 数馬 好和 神戸 尚志 山田 輝彦	LSI/VLSI・プリント基板・論理装置等の論理設計・実装設計・検査設計の自動化, ハードウェア記述言語, 階層化設計手法, シリコンコンパイラ, 設計データ・ベース, 知識ベース CAD, 設計検証, テスト容易化設計, テスト評価

研 究 会 名		○主 査 幹 事	取り扱う研究分野の例
11	マルチメディア 通信と分散処理	○松下 温 水野 忠則 山崎 晴明 若山 博文	1. マルチメディアによる 高度情報通信 ネットワーク・構築技術とその応用 2. 分散処理システムの設計と運用技術・機能分散, 負荷分散等
12	ヒューマンインタ フェース (文書処理とヒューマン インタフェース)	○木村 泉 角田 博保 黒須 正明 小橋 史彦	1. 計算機システムのヒューマンインタフェースとその評価 2. 思考メカニズムと認知モデル 3. 日本語入力方式 4. 文書処理 5. OA とのかかわり
13	グラフィックスと CAD	○川合 慧 宇野 栄之 中嶋 正次 守屋 慎次	グラフィックス・ソフトウェア/ハードウェア, グラフィックス言語, 図形処理・表示アルゴリズム, 表示技術, CAD/CAM, アニメーション, AI の CAD への応用
14	数値解析	○名取 亮 関口 智嗣 野寺 隆成 福井 義成	・数値計算のアルゴリズムの開発 ・スーパーコンピュータによる超大型計算 ・数式処理との融合 ・知識情報処理との融合 ・ハードウェアや言語への提案
15	ソフトウェア基礎論	○佐藤 雅彦 柴山 悦哉 中萩 二朗 野 達也	・ソフトウェアの理論的基礎 (仕様記述, 並列・分散処理, 拡張論理等) ・計算モデル (論理型, 関数型, オブジェクト指向等) ・プログラミングの基礎 (自動合成と変換, デバッグ等)
16	情報システム	○伊吹 公夫 鷹野 澄 槻木 公一 西原 良一	情報システム (OIS, MIS, 情報サービスなど) の分析・設計・構築・利用, 情報ニーズ, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織・社会
17	プログラミング言語	○寛 捷彦 上田 和紀 徳田 雄洋 戸村 哲	プログラミング言語の処理系, プログラミング言語の設計, 標準化, メタ言語と言語の定義
18	情報学基礎	○藤原 譲 有川 節夫 岩野 和生 吉田 郁三	1. 情報の同定, 識別, 記述, 評価など 2. 情報の媒体, 変換, 分類, 標準化など 3. 情報の管理可能性, 組織化, モデルなど
19	コンピュータと教育	○有山 正孝 雨宮 幸雄 大槻 説平 竹谷 誠	1. 知的教育システム (①知的要素技術の基礎的研究, ②知的教育システム開発の実践的研究, ③知的インタフェース) 2. 情報処理教育 (①カリキュラム開発, ②教育技法)
20	アルゴリズム	○野崎 昭弘 今井 浩洋 中村 勝洋 西関 隆夫	1. グラフ, ネットワーク, VLSI などに関する組合せアルゴリズム 2. 計算幾何学と計算代数学 3. 暗号, 符号などの数論的アルゴリズム 4. 確率アルゴリズム, 近似アルゴリズム 5. 並列アルゴリズム, 分散アルゴリズム, ハードウェアアルゴリズム 6. データ構造 7. 計算複雑さの理論
21	*人文科学と コンピュータ	○杉田 繁治 小沢 一雅 及川 昭文 洪 政国	1. 人文科学, 博物館・美術館への情報処理, コンピュータの応用要素と実現技術 2. 人文科学系ユーザにとって柔軟なユーザ・インタフェースの実現要素と技術 3. 情報処理と人文科学系間での学際的協力 4. コンピュータ, 情報処理の社会的側面

人文科学とコンピュータ研究会発足のお知らせ

目 的

近年にいたりコンピュータはさまざまな分野と係わりをもつようになり、コンピュータの応用分野が拡大すると共に、情報処理の新たな展開が期待されている。特に、これまでは機械とか数理といったものから最も縁遠い分野とされていた歴史、考古学、民族学、文学、社会学、宗教、哲学、美術などの人文科学系とか博物館、美術館においてもコンピュータを積極的に使おうとする機運が高まってきた。また一方では、コンピュータの多様な応用利用にともなう社会的インパクトも随所で議論されている。

人文科学系では思弁的作業が大きな比重をしめていること、処理が定型的ではなく個別にすすめられること、利用者主導の立場がなによりも重要であること、取り扱う情報やその媒体と処理が極めて多岐にわたるなど、情報処理的には高度で多分野の技術が要求され、情報処理の専門的立場からの体系的かつ本格的取組みが必要である。また、人文科学系に属する諸学問分野と情報処理分野の専門家たちによる幅広い交流が基本ともなっていること、これらの応用コンピュータシステムは、開発者主導である現状に対して、利用者主導の立場を重視していることなどは、情報処理の学術・技術のあり方に対しての大きな問題提起でもある。

以上のとおり、情報処理、コンピュータを人文科学系に応用するための学術・技術的究明は人文科学系の学問の発展に役立つだけではなく、情報処理、コンピュータ技術の応用拡大や基本課題の発掘・解明に貢献するところが大きいことと、専門家間の交流の機運の高まりを考慮して、コンピュータと人文科学の接点を重視した新しい研究会を発足させることとなった。

多数の会員の参加と積極的な研究会活動を期待するものである。

主要な研究分野

1. 人文科学、博物館・美術館への情報処理、コンピュータの応用要素と実現技術。その概念、モデル、ハードウェア、ソフトウェア、実現事例など。
2. 人文科学系ユーザにとって柔軟なユーザ・インタフェースの実現要素と技術。その概念、モデル、要求分析の方法、ハードウェア、ソフトウェア、評価方法、実現事例など。
3. 情報処理と人文科学系間での学際的協力。その方法、評価方法、事例など。
4. コンピュータ、情報処理の社会的側面。理工学的・社会科学的解明についての基礎と事例など。

提 案 者（五十音順）

井口征士（阪 大）	植村俊亮（農工大）	浮田輝彦（東 芝）
江口一久（民 博）	及川昭文（国立教育研）	小沢一雅（大阪電通大）
北風晴司（日 電）	坂本恭章（東京外大）	新美康永（京都工芸繊維大）
杉田繁治（民 博）	田中 琢（奈良国立文化財研）	照井武彦（歴 博）
徳永幸生（NTT）	長瀬真理（東京女子大）	八村広三郎（京 大）
早川聞多（国立国際日本文化研究センター）		星野 聡（京 大）
洪 政国（日本IBM）	榊形公也（大阪教育大）	松田芳郎（一橋大）
松本浩一（情報大）	八重樫純樹（歴 博）	安永尚志（国文学研究資料館）
山本毅雄（情報大）		

年 月 日

平成元年度研究会（新規）登録申込書

（フリガナ）
 ○ 会員氏名 _____ [正・学・賛] 会員 No. _____
 ○ 勤務先名・所属 _____ Tel. _____
 所 在 地 （〒 _____）

○ 資料送付先（上記勤務先以外の場合のみ記入）
 （〒 _____）

（ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること）

（*新設）

申込み	研 究 会 名	登録費	申込み	研 究 会 名	登録費
	自然言語処理	3,000円		ヒューマンインタフェース	3,000円
	データベース・システム	3,000円		グラフィクスと CAD	3,000円
	知識工学と人工知能	2,500円		数値解析	2,500円
	記号処理	2,500円		ソフトウェア基礎論	3,000円
	ソフトウェア工学	3,000円		情報システム	3,000円
	マイクロコンピュータとワークステーション	2,500円		プログラミング言語	2,500円
	計算機アーキテクチャ	3,000円		情報学基礎	2,500円
	オペレーティング・システム	2,500円		コンピュータと教育	2,500円
	コンピュータビジョン	3,500円		アルゴリズム	2,500円
	設計自動化	3,000円		* 人文科学とコンピュータ	2,500円
	マルチメディア通信と分散処理	3,000円			

○ 登録費（年間）2,500円× _____ 件，3,000円× _____ 件，3,500円× _____ 件 合 計 _____ 円也

○ 次のいずれかの方法でご送金ください。いずれの場合も必ず登録申込書が必要です。

なお、会社名などで送金の場合は、別途必ず個人名を事務局までお知らせください。

- ☐ 現金書留：登録費と登録申込書を同封のこと。
 ☐ 現金持参
☐ 郵便払込：口座番号 東京 5-83484（払込用紙に希望研究会名を記入のこと。）
☐ 銀行振込：第一勧銀・虎ノ門支店（普）No. 1013945

○ 払込み日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

○ 情報処理学会の請求書（ 通 ），見積書（ 通 ），納品書（ 通 ）が必要です。

*登録上の注意

- 1) 本申込書は新規の方のみご利用ください（昭和 63 年度に登録された方は使用できません。）
- 2) 昭和 63 年度にいずれかの研究会に登録された方には、別途各登録者宛に「平成元年度研究会の登録について（お願い）」を送付いたします（2月上旬）。
- 3) 登録は本学会員に限りです。各研究会登録費は年間上表のとおりです。登録者には、研究会開催のつど資料を後日郵送します。
- 4) 登録は、登録費の領収をもって正式の受け付けとします。おそくとも 5 月末日までにご登録ください。6 月以降になると既刊の資料は確保しかねますので、ご承知おきください。

（社）情報処理学会 研究会係 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F Tel. 03(505)0505

年 月 日

研究会発表申込書 (様式 4)

太線枠内のみご記入ください。

研究会名	研究会									
発表希望の 研究会開催日	年 月 日 ()									
タイトル										
発表者名 (略称所属)										
概要 (50 字以内)										
原稿用紙送付先住所	〒			Tel. — (内線)						
氏 名										

年 月 日受付				
研究会名	資料 No.	開催日	幹事送付済み	その他
		年 月 日		

研究発表会・シンポジウム論文原稿執筆要領（暫定）

社団法人 情報処理学会

1. （目的）研究発表会資料およびシンポジウム論文集は、研究内容等の発表資料として用いるほか、来聴できない研究会登録会員等に講演内容を知らせる役割ももっていますので、それだけ読めば研究の目的、考え方、手法および結論が理解できるように配慮してください。
2. （ページ数）原稿の長さは各研究会所定のページ数（ ページ）以内とし、止むを得ず超過する場合は各主査または担当幹事の承認を求めてください。
3. （原稿用紙）研究発表会資料およびシンポジウム論文集は、経費節約とミスプリント防止のため、オフセット印刷にしています。A 4 判原稿は寸法比約 85% に、B 4 判原稿は約 70% に、それぞれ B 5 判の大きさに縮写、印刷しますので、製本された場合の読みやすさについてご注意ください。
4. 原稿は、ワープロ等を用いて、活字体で作成してください。なお、オフセット印刷ですので、印字品質にご配慮ください。
原稿を手書きで作成される場合には、原稿用紙を学会研究会・シンポジウム係へご請求ください。
5. ワープロ等で原稿を作成される場合、次の例を一つの目安としてください。ただしこの例は、活字を約 10.5 ポイント（約 3.5 mm 角）とした場合を想定しています。一般に字の大きさと不釣合に行間を詰めると大変読みにくくなりますので、ご注意ください。
 - （1） A 4 判 1 段組の場合 46 字×40 行
 2 段組 " 22 字×40 行×2 段
 - （2） B 4 判 1 段組の場合 50 字×40 行
 2 段組 " 24 字×40 行×2 段
 - （3） 1 ページ目の様式、および上下左右（各 25 mm 程度）の空き方は、添付の手書き用原稿用紙を参考にしてください。
 - （4） 2 段組の場合、段間は 2 文字空き程度が適当です。
6. （図・表・写真）図および表は、原稿用紙の最も適当な位置に原則として直接記入してください。幅いっぱいにならない図・表は左側または右側に寄せて、反対側の余白は本文に利用してください。図・表はトレーシングペーパー等にも書いても結構ですが、その場合は、図・表の入る余白を取って、その箇所に図・表の上部のみ、しっかりと糊付け（ペーパーセメント、両面粘着テープが望ましい。セロテープは不可）してください。写真も同様です。なお、図等は、縮小したとき見にくくならないようにご留意願います。
7. （締切期日・提出日）原稿は 月 日（ ）までに着くよう、データシート（学術情報センター提出用、シンポジウムは不要）と一緒に下記あて提出してください。提出期限に遅れますと研究発表会またはシンポジウムの資料に掲載できなくなりますのでご注意ください。
8. （原稿の返却）申込みにより返却いたします。

（提出先）〒106 東京都港区麻布台 2-4-2

社団法人 情報処理学会 研究会・シンポジウム係

Tel. 03 (505) 0505

情報処理学会 第 38 回 全国大会（平成元年前期）参加について

開催期日 平成元年 3 月 15 日（水）～17 日（金）

会場 中央大学・理工学部（東京都文京区春日）

プログラム 詳細は本号黄色のページに掲載してあります。交通、会場などはプログラム末尾の会場案内図を参照してください。

一般参加の方へ

1. 総 受 付 5 号館 1 階ロビー

2. 参 加 費 会 員 1,000 円（賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます。）

非会員 2,000 円（ただし電気、電子情報通信、照明、テレビジョンの各学会会員は会員扱いとします。会員番号を申し出てください。）

3. 論 文 集 定 価 6,000 円（予約は締切りました。）

（当日、予約者以外にお頒けできるのは、残部のある場合に限りです。）

◎ 参加される方は、受付にて参加費を納め、参加章を受けとってください。参加章のない方は会場に入れません。

一般講演を行う方へ

1. 講演者は、講演の始まる前に、必ず各セッション会場前の講演者受付で、出席の確認を受けてください。
2. 講演者は、前の講演者の講演時間中に、座長席の前に設けられた「講演者控」で待機するようにしてください。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて、15 分を原則とします（都合により 13 分のセッションもあります）。講演中でも時間がくれば打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の 5 分前および 3 分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代読は認めません。

~~~~~  
学術奨励賞の表彰 大会初日（15 日）午前に第 37 回全国大会学術奨励賞受賞者の表彰を A 会場で行います。

### （その他の一般注意）

1. 食堂、休憩室などはプログラムの会場案内図等を参照のこと。
2. 電話の呼び出しはいたしません（万一止むを得ない場合のみ、伝言板に掲示：Tel. 03 (817) 1995）。
3. 駐車場がないので、自家用車による参加はできません。

## 学術奨励賞候補の推薦について

全国大会で優秀な論文を発表した会員の中から、大学学部卒業後 10 年未満（またはこれと同等）の若手の科学者・技術者約 10 名を選び、学術奨励賞を贈呈し表彰いたしております。

つきましては、来る 3 月 15 日～17 日に中央大学・理工学部で開催される第 38 回全国大会での登壇発表者の中から、下記により受賞候補者 1 名をご推薦くださいますようお願いいたします。

また、第 38 回全国大会参加者には会場に推薦用紙を用意してありますので、会場でご推薦くださるようお願いいたします。

なお、受賞者の選定は学術奨励賞委員会（委員長 野口副会長）で行い、その発表と表彰は本年 10 月に開催の第 39 回全国大会（九州工業大学）時に行われる予定です。

### 記

#### 選定範囲および推薦数

第 38 回全国大会で発表された優秀な論文の登壇発表者 1 名

**推薦資格** 本学会正会員に限る。

**推薦方法** 官製はがきに、推薦する論文の ①講演番号 ②題目 ③登壇発表者名 ④所属 ⑤出身校（学部）卒年 ⑥推薦理由および推薦者の氏名、所属、住所をもれなくご記入のうえ、本会学術奨励賞係あてお送りください。

**推薦締切** 平成元年 3 月 31 日（当日消印有効）

### 表 彰 規 程（抜 粋）

#### 第 5 章 学 術 奨 励 賞

第 19 条 学術奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第 20 条 学術奨励賞を受ける者は、全国大会において優秀な論文を発表した者で、つぎの各号に該当する者から選定する。

- イ 選定の時期において本会会員であること（選定の時期とは、第 1 回の委員会開催時とする。）
- ロ 講演の時期において大学の学部卒業後 10 年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ 大会参加申込の際講演者として登録かつ講演を行った者であること。
- ニ 本奨励賞を受けたことのないものであること。

第 21 条 第 20 条の選定は、全国大会終了後速やかに行う。

第 22 条 学術奨励賞は、毎回約 10 名ずつ選定し、贈呈する。

第 23 条 学術奨励賞は、賞状、賞牌および賞金とする。

- 2. 賞金は、1 名につき 20,000 円とする。

## 昭和 63 年度第 30 回 臨時総会の開催について

会費改定に関し定款を改訂するため、臨時総会を下記により開催いたします。ぜひご出席ください。

なお、総会の案内状は、正会員各位に 1 月下旬別途郵送いたしました。ご欠席でまだ委任状を出されていない方は早急にお送りください。

### 記

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 日 時  | 平成元年 2 月 27 日 (月) 14 : 00 ~ 15 : 00  |
| 会 場  | 機械振興会館ホール (地下 2 階)                   |
| 総会次第 | 1. 会長のあいさつ<br>2. 定款の改訂について<br>3. その他 |

## 会費および入会金の改定について

会費および入会金は、昭和 50 年度に現行の金額に改定以来、今日まで 10 数年間据置のままで参りました。この間郵便料金の値上げなど物価の上昇により諸経費が増加し、会員の増加による収入増より支出増が上廻る状況となりました。すなわち、各年度の年間収支は次第に悪化し、ついに 61 年度からは実質収支が赤字となり、63 年度予算は赤字編成となっております。

この間もとより収支の改善に取り組み、収入の増加・支出の節減に努めて参りましたが、その努力も限界に達し会費改定の止むなきに至りました。この改定は学会事業の継続のため是非とも必要なものでありますので、会員各位のご理解を賜りたく存じます。

つきましては、来る 2 月 27 日 (月) に臨時総会を開催し、平成元年度から下記のとおり会費等を改定いたしたく存じます。諸般の事情をご賢察いただきご了承くださいますようお願いいたします。

なお、会費等の改定理由および定款改訂案につきましては、本号巻末に掲載しましたので、ご参照ください。

### 記

|             | 現 行      | 改 定      |
|-------------|----------|----------|
| 正会員費        | 7,200 円  | 9,600 円  |
| 賛助会員費 (1 口) | 30,000 円 | 50,000 円 |
| 学生会員費       | 3,000 円  | 4,800 円  |
| 海外会員費       | 5,700 円  | (現行どおり)  |
| 正会員入会金      | 700 円    | 2,000 円  |
| 学生会員入会金     | 500 円    | 不 要      |

## 本誌定価および購読員登録料の改定について

本会告欄にてお知らせしたとおり、本年 4 月から会費改定の運びとなっております。

これにともない、本誌定価 (一般頒布価格) および購読員登録料を、下記のとおり本年 4 月から改定いたします。

記

|                  | 現 行      | 改 定      |
|------------------|----------|----------|
| 学会誌「情報処理」普通号（1冊） | 1,200 円  | 1,600 円  |
| 国内購読員登録料         | 17,000 円 | 20,000 円 |
| 海外購読員登録料         | 3,000 円  | （現行どおり）  |

## 平成元年度会費および論文誌・欧文誌購読費について

標記につきましてはこれまで、個人会員には1月に、賛助会員は3月にそれぞれご請求し、前年度末までに納入いただくようお願いしておりましたが、本欄にて会告のとおり、平成元年度からの会費改定を考慮して、臨時総会開催後の3月以降に新会費にて請求させていただきますのでご了承ください。

また、預金口座振替の会員も3月に自動振替は行わず、4月以降に新会費にて振替えますのでご留意ください。

## 本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内\*

セミナ「実現へ向けて第一歩を踏み出した CAD データ交換国際規格 STEP」

平成元年3月3日（金）

東京・コープビル

第3回 光波センシング技術研究会

平成元年6月15日（木）～16日（金）

東京工学院専門学校

第4回 産業における画像センシング技術シンポジウム

平成元年6月15日（木）～16日（金）

東京・コクヨホール

第13回 構造工学における数値解析法シンポジウム

平成元年7月18日（火）～20日（木）

東京・建築会館ホール

第2回 インテリジェント FA シンポジウム

平成元年7月19日（水）～21日（金）

大阪マーチャндаイズマートビル

第4回 日本 ME 学会秋季大会

平成元年10月17日（火）～18日（水）

北海道大学学術交流会館

第5回 ヒューマン・インタフェース・シンポジウム

平成元年10月26日（木）～27日（金）

アピカルイン京都

\* 詳細は本号会議案内欄参照



## 「IFIP TC-2 Working Conference on Visual Database Systems」 開催について

表記国際会議を本年4月東京において開催いたします。皆さま奮ってご参加ください。

主 催 IFIP TC-2

共 催 情報処理学会

東京大学理学部情報科学科

会 期 1989年4月3日(月)～7日(金)

会 場 東京大学山上会館(東京都文京区本郷 7-3-1)

プログラム概要(予定)

招待論文(4編: 米国2編, 西ドイツ1編, スイス1編)

投稿論文(19編: 米国6編, 日本4編, イタリア2編, 中国・オランダ・西ドイツ・スウェーデン・  
フランス・ソ連・シンガポール各1編)

パネル・ディスカッション

テクニカル・ツアー(4月5日午後)

参 加 費 1989年3月31日まで30,000円, 4月1日以降35,000円

参加費には予稿集一冊と4月6日(午後6時～8時)開催のレセプション費用が含まれます。

申込・問合せ先

東京大学理学部情報科学科國井研究室 白井靖人(113 東京都文京区本郷 7-3-1)

Tel. 03 (812) 2111 内 4116, Fax 03 (818) 4607, E-mail: b39756@tansei.cc.u-tokyo.junet

### 「IFIP TC-2 Working Conference on Visual Database Systems」

#### 参 加 申 込 書

申込者 氏名 \_\_\_\_\_ 氏名の英語表記 \_\_\_\_\_

連絡先(住所, 会社名, 所属) 〒 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ Tel. \_\_\_\_\_

連絡先英語表記 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

表記国際会議の参加を下記によって申し込みます。

○ 参 加 費 ☐ 30,000 円

☐ 35,000 円

○ ツ ア ー ☐ (無料. 参加する場合はチェック)

○ 送金方法(金額, 振込月日を記入)

\_\_\_\_\_円を\_\_\_\_月\_\_\_\_日, 下記銀行口座に振込みます。

第一勧業銀行 本郷支店 普通預金口座 1089902

口座名 IFIP TC-2 Working Conference 代表 國井利泰

注) 申込書は1枚1人としてください。(この用紙のコピーで可)

## 第 11 回 世界コンピュータ会議案内

IFIP (International Federation for Information Processing: 情報処理国際連合) は、自由主義圏から共産圏、先進国から発展途上国まで 59 カ国の 46 の情報処理に関する技術的専門団体が参加している国際的な連合組織です。UNESCO の後援で 1959 年 6 月、第 1 回情報処理国際会議がパリで開催された際に基本構成が決定され、翌 1960 年 1 月に正式に発足しました。加盟は 1 カ国 1 団体が原則ですが、発展途上国に対しては数カ国で 1 団体を構成することが認められています。1960 年に情報処理学会が設立された目的の一つに、日本を代表して IFIP に加盟することがありました。

IFIP の活動の中の最も重要なものが、3 年毎に開催される世界コンピュータ会議です。第 1 回パリ大会以降各国で開催され、1980 年には、東京で IFIP Congress '80 として、当学会が主催し、世界から 2,300 名の参加を得て、大きな成功を納め、1980 年代の「情報処理技術の国際交流」へ大きな刺激を与えた実績があります。これは、特に AFIPS (米国情報処理学会連合) の参加勧誘協力のおかげでありました。1989 年には、IFIP ならびに AFIPS 共催による標記の第 11 回世界コンピュータ会議 (IFIP Congress '89) が、8 月 28 日～9 月 1 日に、23 年振りにアメリカで、しかも太平洋対岸のサンフランシスコで開催されます。それだけに、今回の Congress では、日本からの参加が非常に期待されています。

とくに IFIP Congress '89 は右側のプログラムにあるように、最新の技術論文の発表のほかに、情報処理の企業経営に役立つチュートリアル、パネル、シンポジウム、会社視察訪問ならびに多彩な展示会が計画されています。大学等において教育・研究に携わる方々、企業トップの方々を始めハードウェアやソフトウェアの技術者・研究者の皆さまにとって、裨益するところが大きいと思われます。

エレクトロニクスをめぐる、日米間に種々の軋轢が聞かれるときだけに、わが国からできるだけ多くの研究者が参加され、学术交流を通じて、国際親善につくされることは、誠に意義深いものと存じます。わが国からできるだけ多くの方々のご参加を期待いたします。

参加の希望ならびに会議出席に関心のある方は、下記の担当までご連絡ください。詳しい資料をお送りいたします。また、4 月ごろ Technical Program ができますので、その他の情報とともにご案内いたします。

日本からの IFIP Congress '89 の参加申込は、情報処理学会を登録窓口 (JTB に業務委託) といたします。そのため、原則として直接アメリカへの申込はご遠慮ください。その場合、送金手数料、郵送料など登録に関わる費用はいたしませんので、直接アメリカへ申し込むより、費用がかからず確実に行えます。

〔問い合わせ先〕

(株)日本交通公社 東京麹町支店 IFIP '89 係

〒102 東京都千代田区麹町 4-3-5

☎ (03) 239-9286 FAX (03) 239-9285

### 会 議 日 程

|       | 8/24 木  | 8/25 金            | 8/28 月      | 8/29 火        | 8/30 水 | 8/31 木        | 9/1 金       |
|-------|---------|-------------------|-------------|---------------|--------|---------------|-------------|
| セッション |         |                   | 開会式<br>論文発表 | 論文発表          | 論文発表   | 論文発表          | 論文発表<br>閉会式 |
| その他   | チュートリアル | チュートリアル<br>会社視察訪問 |             | 展示会<br>会社視察訪問 | 展示会    | 展示会<br>会社視察訪問 |             |

会議・展示会会場: Moscone Center 会議と展示会は同じ場所で行われ大変便利です。Moscone Center はサンフランシスコの中心ユニオンスクエアから歩いてすぐの距離にあります。



# WORLD COMPUTER CONGRESS



San Francisco, California USA • August 28 - September 1, 1989

## CONGRESS HIGHLIGHTS

Sponsored by International Federation for Information Processing

Hosted by American Federation of Information Processing Societies

Organizing Committee Chair—Stephen S. Yau, USA  
Program Committee Chair—Hervé Gallaire, FRG

The World Computer Congress is the premier assembly of computer professionals from around the globe. Held only every three years, and in the United States for the first time in twenty-four years, this prestigious event attracts and features top scientists, engineers, users, managers and policy makers from industry, academia and governments.

## CONGRESS PROGRAM

Theme: Better Tools for Professionals

The goals of this open scientific Congress are to present new developments, identify emerging tools and explore how their benefits can be realized in a number of critical areas. The dynamic Congress agenda includes a broad-based technical program, in-depth tutorials and diverse technical visits to information processing facilities in the San Francisco area. Concurrent world computer exhibits showcase the very latest in software and hardware from manufacturers from around the globe. Moscone Center, San Francisco's foremost meeting and exhibit hall, will house both the Technical Program and Exhibition.

## TECHNICAL PROGRAM • August 28-September 1

The Technical Program will consist of eleven tracks, each of which will examine an area from various perspectives and address areas where significant scientific and technical changes are taking place. Each track, headed by the listed member of the Program Committee, will feature invited speakers and responders, panels and contributed papers from around the world. IFIP Congress '89 will also feature individual and comparative presentations evaluating and discussing computer software technology projects carefully selected to represent what these programs consider to be their best efforts.

Fundamental Tools • Jozef Gruska, Czechoslovakia  
Languages and Operating  
Systems • Gilles Kahn, France

Communication and

Distributed Systems • Otto Spaniol, FRG  
Knowledge-Based Systems • John Mylopoulos,  
Canada

Software Engineering • Mark Dowson, USA

Supercomputing • Mario Tokoro, Japan

VLSI-CAD Tools • Mario Barbacci, USA

Office Automation • Bill Curtis, USA

Factory Automation • Georges Giralt, France

Education • D. Henk Wolbers, The Netherlands

Computers and Society • Luís Penedo, Portugal

Major Information • Dines Bjørner

Technology Programs (Past Chair), Denmark

Proceedings Editor • Gerhard Ritter, USA

## ONE-DAY TUTORIALS • August 24-27

Software Risk Management/Barry Boehm, USA

Integrated Office Systems/David Choy, USA

Human-Computer Interaction/Joelle Coutaz, France  
& Leonard Bass, USA

Computer Networks and Telematic Services/Radu  
Popescu-Zeletin, FRG

Supercomputer Systems and Applications/Paul B.  
Schneck, USA

Computers for Artificial Intelligence Applications-  
Benjamin Wah, USA

Computer Aided Design for VLSI/Carlo Sequin et al.

Software Reliability Measures/John Musa

Trends in Microprocessor Design/Nick Tredernick

Principles and Practices of Object Oriented Pro-  
gramming Clarence Ellis

## TECHNICAL VISITS • August 25, 29 and 31

Amdahl Corporation • Ampex Corporation • Apple  
Computer • Hewlett Packard Corporation • IBM  
Corporation • Lawrence Berkeley Laboratory •  
Lawrence Livermore National Laboratory • NASA/  
Ames Research Center • Olivetti Research Center •  
Silicon Graphics • Stanford University • Sun Micro-  
systems • University of California at Berkeley

## WORLD COMPUTER EXHIBITION • August 29-31

View and compare the latest computer products and  
services from leading manufacturers and suppliers  
from around the world at the Exhibition, housed  
with the Technical Program at Moscone Center.  
For information on exhibiting contact:

Exhibits Management • Industrial Presentations,  
12371 East Comell Ave, Aurora, Colorado 80014,  
USA, Phone (303) 696-6100 • Fax (303) 751-1880

## 「データベースシステムの高度応用に関する国際シンポジウム」 開催について

標記国際シンポジウムをソウルで開催いたしますので、皆さま奮ってご参加ください。本シンポジウムは環太平洋地域を中心として今後も定期的に開催される予定です。第1回の今回はオリンピックを機に大きく発展しようとしている韓国での開催です。日本からは旅費も少額で済みますので、この機会に近隣諸国との技術交流を図っていただけますようお願いいたします。

|      |                                                                       |                                              |
|------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 名 称  | International Symposium on Database Systems for Advanced Applications |                                              |
| 主 催  | Korea Information Science Society (KISS)<br>(社)情報処理学会 (IPSJ)          |                                              |
| 協 賛  | IEEE Computer Society                                                 |                                              |
| 会 期  | 1989年4月10日(月)～12日(水)                                                  |                                              |
| 会 場  | タワーホテル (韓国ソウル)                                                        |                                              |
| 主な委員 | 名誉委員長                                                                 | KISS 会長 Chul-Hee Lee<br>情報処理学会会長 大野 豊        |
|      | シンポジウム委員長                                                             | Suk-Ho Lee (韓国ソウル大学)<br>國井秀子 (リコー)           |
|      | プログラム委員長                                                              | Won Kim (米国 MCC)                             |
|      | プログラム副委員長                                                             | In-Sup Paik (韓国 DACOM)<br>上林弥彦 (九州大学)        |
|      | 組織委員長                                                                 | Yoon-Joon Lee (韓国 KAIST)<br>黒川恒雄 (工学院大学)     |
|      | 財務                                                                    | Seog Park (韓国ソガン大学)<br>石井義興 (ソフトウェア・エージェンシー) |

### プログラム概要 (予定)

4月10日

チュートリアル1…Gio Wiederhold (スタンフォード大学)  
The Architecture of a System That Extracts Knowledge from Data  
チュートリアル2…田中克己 (神戸大学)  
Object Oriented Database Systems

4月11日

オープニング  
セッション1 a…User Interfaces  
セッション1 b…Advanced Data Models  
セッション2 (パネル) …Impacts of Advanced Applications on Databases  
セッション3…Advanced Applications  
セッション4 a…Knowledge Based Systems  
セッション4 b…System Implementation I  
バンケット

4月12日

セッション5 a…Object Oriented Databases  
セッション5 b…Query Processing Architecture

セッション 6 a …High Performance Systems

セッション 6 b …Recursive Query Processing

セッション 7 a …Multimedia Database Systems

セッション 7 b …System Implementation II

a と b はパラレルセッションとなります。

**ツアー** 4月10日に韓国民俗村へのバスツアーを予定しております。李朝時代の建物や生活風俗を再現したものです。参加費は2,500円程度になります。

**参加費** 技術セッション 5,000円, バンケット 10,000円  
チュートリアル (一般) 10,000円, チュートリアル (学生) 4,000円

**申込締切** 1989年2月28日  
3月1日以降の申込みにつきましては、現地にて当日料金をウォンで支払っていただくこととなります。また、宿泊の予約をご希望の方は、1月31日までにできるだけ早くご連絡ください。タワーホテルにはダブルとツインの部屋があり、ダブルの場合1泊9,000円程度になります。

**申込み・問合せ先**

112 東京都文京区小石川 1-1-17

(株)リコー ソフトウェア研究所

金崎克己

Tel. 03 (815) 7261, FAX 03 (818) 0348, E-mail kana@src. ricoh. junet

## 「データベースシステムの高度応用に関する国際シンポジウム」参加申込書

年 月 日

申込者 氏名 \_\_\_\_\_ 氏名の英字表記 \_\_\_\_\_

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ Tel. \_\_\_\_\_

連絡先の英字表記 \_\_\_\_\_

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

## ●参加費 (該当する欄にチェック)

☐ 技術セッション 5,000円☐ バンケット 10,000円☐ チュートリアル (一般) 10,000円☐ チュートリアル (学生) 4,000円●ツアー ☐ (参加する場合はチェック)

## ●ホテルの予約 (希望する場合は宿泊期間と部屋の希望を記入)

## ●送金方法 (金額, 振込月日を記入)

\_\_\_\_\_円を\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日, 下記銀行口座に振込みます。

三菱銀行 春日町支店 普通預金口座 062-0329033

口座名 DASFAA 國井秀子

請求書類の必要な方はお申出ください。

請求書  
請求先 \_\_\_\_\_

通, 見積書

通, 納品書

(No. \_\_\_\_\_)

通

注) 申込書は1枚1人としてください (この用紙のコピーで可)。

## 第1回 演繹・オブジェクト指向データベース国際会議

The First International Conference on Deductive and Object-Oriented Databases (DOOD '89)

- 主催** (社)情報処理学会 (IPSJ)  
(財)京都高度技術研究所 (ASTEM RI/Kyoto)
- 後援** ECRC, ICOT, INRIA, MCC
- 協賛** ACM SIGMOD, IEEE CS 等
- 日程** 1989年12月4日(月)～6日(水)
- 場所** 京都リサーチパーク, サイエンスセンタービル内会議場
- 主旨** 最近, 次世代のインテリジェントデータベースを構築するための強力なデータベースの骨組みを与えるために, オブジェクト指向のパラダイムとルールに基づく演繹システムの融合をめざす研究の必要性が叫ばれ, その研究が盛んになりつつある. そこで, この問題だけにテーマを絞った国際会議の第1回を日本で開催する運びとなった. テーマとしては下記のものを含むが, これらだけに限ってはいない (ただし, DOOD は演繹・オブジェクト指向データベースの略である).
- 論理とオブジェクトパラダイムの融合
  - DOOD とプログラミング言語の融合
  - DOOD における人工知能技術
  - オブジェクト指向概念の形式化
  - 並列論理型/オブジェクト指向プログラミング
  - DOOD における問合せ言語および問合せ最適化
  - DOOD システムに対する高級ユーザインタフェース
  - 実 DOOD システム
  - DOOD システムの応用
  - DOOD における一貫性制約
  - DOOD システムの性能評価
- 主な委員**
- 会議委員長 大野 豊 (情報処理学会会長, 京都高度技術研究所所長)
- 運営委員会委員長 Jack Minker (米国メリーランド大)
- プログラム委員会:
- アメリカ地区委員長 Won Kim (米国 MCC)
- ヨーロッパ地区委員長 Jean Marie Nicolas (西ドイツ ECRC)
- 極東地区委員長 西尾章治郎 (大阪大)
- 実行委員会委員長 牧之内顕文 (富士通研)
- 組織委員会副委員長 上林 彌彦 (九州大)
- 論文送付先** 日本の方は下記に5部お送りください.
- 560 豊中市待兼山町 1-1 大阪大学基礎工学部情報工学科  
西尾章治郎 (Tel. 06 (844) 1151 (内) 4826, FAX 06 (853) 5747)
- 期 日** 論文締切 (英文ダブルスペース 20 頁以内, 1989年5月1日)  
採録通知 (1989年8月1日)  
最終論文原稿締切 (1989年9月25日)  
事前参加登録締切 (1989年11月1日)
- 問合せ先** 600 京都市下京区中堂寺南町 17  
京都リサーチパーク サイエンスセンタービル  
(株)サイエンス・インターナショナル (SCI)  
宮崎 郁子 (Tel. 075 (322) 7888 (代), FAX 075 (322) 5348)

「数値解析シンポジウム」の講演申し込みのお知らせ

今年度のシンポジウムは、下記の予定で開催します。ふるってご参加をお待ちしております。今回も例年どおり、身近な問題から最新の話題まで、幅広い分野での講演申込をお待ちいたしております。

参加と講演を希望される方はお申し込みください。申し込み締切りは4月10日とします。講演する方は、その要旨をB5判、4枚程度に清書して、4月30日（必着）までにお送りください。そのままコピーして予稿集を作成します。

記

会 場：早稲田大学追分セミナー・ハウス  
Tel. 軽井沢 0267 (45) 1502  
長野県軽井沢町大字追分字浅間山 1448-4  
期 日：平成元年6月9日(金), 10日(土), 11日(日)  
費 用：1泊3食付き 6,000円

|                                     |                                                                                                                                  |     |         |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------|
| 第 18 回 数値解析シンポジウム参加・講演申し込み（4月10日締切） |                                                                                                                                  |     |         |
| 氏 名                                 |                                                                                                                                  | 所 属 |         |
| 連 絡 先                               | 〒 Tel FAX                                                                                                                        |     |         |
| 参加の形態                               | 9日1泊, 10日1泊, 2泊                                                                                                                  | 講 演 | する, しない |
| 講 演 題 目                             |                                                                                                                                  |     |         |
| 希望日, 時                              | 分間                                                                                                                               | 日   | 午前 午後   |
| 大 要                                 |                                                                                                                                  |     |         |
| 申し込み先<br>及び<br>予稿宛先                 | 〒160 東京都新宿区大久保 3-4-1<br>早稲田大学理工学部数学科 中島勝也<br>FAX 03-200-2567 数学科 中島勝也<br>BITNET NAKASIMA@JPNWASOO<br>JUNET NAKASIMA@wucc. waseda |     |         |

## 「CASE 環境シンポジウム」開催について

標記シンポジウムに関して、多数の論文をご応募いただき、誠にありがとうございました。論文審査の結果、下記要領でシンポジウムを開催しますので、多数の方々のご参加をお願いいたします。

### 記

日 時 平成元年3月2日(木), 3日(金) 9:00~17:00  
場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)  
参 加 費 会員 10,000 円, 非会員 15,000 円, 学生 1,500 円(論文集のみ 3,000 円, 送料 400 円)  
申込締切 平成元年2月15日(水)(定員 150 名になり次第, 締切ります)

### —— プ ロ グ ラ ム ——

#### 第1日(3月2日(木))

##### 招待講演(9:00~10:00)

- CASE 環境の現状と動向 藤野 喜一(日電)

——休憩(10:00~10:10)——

##### セッション1 プロセスモデル(10:10~11:55) 座長 永田 守男(慶大)

- ソフトウェア開発環境定義用スクリプトの生成法について  
荻原 剛志, 飯田 元, 井上 克郎, 鳥居 宏次(阪大)
- ソフトウェア仕様を対象としたプロセス代数 大槻 繁, 中野 利彦(日立)
- ソフトウェアエンジニアリングデータベースにおけるセマンティックデータモデルについて  
松本 吉弘(東芝)

——昼食(11:55~12:45)——

##### セッション2 視覚化・図式表現(12:45~14:30) 座長 橋本 恵二(富士通)

- New-SWB におけるビジュアルプログラミングの検討  
建部 周二, 藤本 繁喜, 内金崎誠一, 山本 修一(東芝)
- ソフトウェアの基本設計と図式エディタ PAN  
塩見 彰睦, 河合 和久, 大岩 元(豊橋技科大)
- ソフトウェア要求定義支援技法/環境: Card  
大西 淳, 阿草 清滋(京大), 大野 豊(京都高度技研)

——休憩(14:30~14:40)——

##### セッション3 統合環境(14:40~17:00) 座長 松村 一夫(東芝)

- CASE 環境構築のためのファイル管理機能 岸 知二, 入交 晃一, 坪谷 英昭(日電)
- ソフトウェア開発支援システム SDSS  
藤井 諭, 上田 謙一(松下電器産業), 清岡 弘(松下通信)
- 通信ソフトウェア開発用統合環境 深尾 至, 西山 好雄, 豊島 康文, 藤本 洋(富士通)
- 統合化Cプログラミングシステムの実現  
西岡 健自, 平田陽一郎, 井上 健, 岡垣 弘美, 杣 崇子(横河電機)

#### 第2日(3月3日(金))

##### 招待講演(9:00~10:00)

- ワークステーション時代のビジュアル 4 GL: SPACE 原田 実(電力中研)

——休憩(10:00~10:10)——

##### セッション4 解析・検証(10:10~11:55) 座長 紫合 治(日電)

- プログラム構造設計の自動化について 橋本 正明(ATR)



●モジュール化されたソフトウェアに対する要求仕様記述とその検証法

山田 宏之(愛媛大), 松下 芳豊(野村総研), 井上 健(神戸商船大)  
手塚 慶一(阪大), 高松 雄三(愛媛大)

●プログラム開発環境 dm CASE における解析環境

松浦佐江子, 大林 正晴(管理工学研)

——昼食 (11:55~13:00)——

セッション5 並列・リアルタイム処理 (13:00~14:45)

座長 等々力正文(鉄道総研)

●Monitoring Concurrent Systems: A Survey

牛島 和夫, 程 京徳(九大)

●リアルタイム用ソフトウェア開発環境の一提案

福岡 康夫(新日鉄)

●通信ソフトウェア仕様の簡明化処理

若原 恭, 伊藤 篤, 宇都宮栄二(KDD)

——休憩 (14:45~15:00)——

パネル討論 (15:00~17:00)

司会 花田 収悦(NTT)

●CASE 環境の夢物語 —革新的将来像—

パネリスト

阿草 清滋(京大), 落水浩一郎(静岡大) 中田 修二(Σ本部)

玉井 哲雄(三菱総研)

# 「CASE 環境」シンポジウム

## 参 加 申 込 書

平成元年 月 日

申込者 氏名\_\_\_\_\_ 会員 No.\_\_\_\_\_

連絡先(住所, 会社名, 所属)〒\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ Tel.\_\_\_\_\_

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参 加 費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

○論 文 集 の み (3,000 円, 送料 400 円) 冊

○送 金 方 法

\_\_\_\_\_円を\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日送金します。(金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ。)

a. 現金書留 (送金先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会シンポジウム係)

b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

|                                |         |           |         |
|--------------------------------|---------|-----------|---------|
| 第一勧銀虎ノ門支店                      | 1013945 | 富士銀行虎ノ門支店 | 993632  |
| 三菱銀行虎ノ門公務部                     | 0000608 | 三井銀行本店    | 4298739 |
| 住友銀行東京公務部                      | 10899   | 三和銀行東京公務部 | 21409   |
| 名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会 |         |           |         |

請求書類の必要の方はお申出ください。

(No. )

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通  
請求先\_\_\_\_\_

注) 申込書は1枚1人としてください(この用紙のコピーで可)。

## 支部だより

### 中部支部

#### 専門講習会

**日 時** 平成元年2月16日(木)～17日(金)  
**テ ー マ** 最近の企業内通信システム  
**会 場** 名古屋通信ビル2階ホール(名古屋市中区千代田 2-15-18)  
**参 加 費** 会員 8,000 円(学生 5,000 円), 一般 11,000 円, テキストのみ 5,000 円(送料込)  
定員 120 名に達し次第締切ります。  
**問合せ先** 名古屋大学工学部情報工学第二講座内 情報処理学会中部支部 Tel. 052 (781) 5111 (内 5803)  
**プログラム**

2月16日(木) 9:00～16:00

|                                        |             |
|----------------------------------------|-------------|
| 我が国における電気通信事業及び企業内通信の現状 (9:00～10:20)   | 崎原 永治(郵政省)  |
| 情報通信ネットワーク及びその性能評価 (10:30～11:50)       | 田坂 修二(名工大)  |
| 企業内情報通信ネットワークにおけるセキュリティ (13:00～14:20)  | 佐々木良一(日立)   |
| 工場 LAN 用プロトコル MAP の現状と展望 (14:30～15:50) | 和田 龍児(豊田工機) |

2月17日(金) 9:30～17:00

|                                         |             |
|-----------------------------------------|-------------|
| 企業内情報通信とインタフェース技術 (9:30～10:40)          | 森野 和好(NTT)  |
| 企業内ネットワークの利用法とその高度化 (10:50～12:00)       | 荒木 襄(沖電気)   |
| INS/ISDN の普及と企業内 LAN の高度化 (13:00～14:10) | 千石 雅美(日電)   |
| 広帯域 LAN と次世代 ISDN 技術 (14:20～15:30)      | 村上 孝三(富士通)  |
| 自動車部品製造における情報システム (15:40～16:50)         | 市橋 栄二(日本電装) |

#### 講演会

**日 時** 平成元年2月17日(金) 13:15～15:00  
**会 場** 富山大学工学部(富山市五福 3190)  
**演 題** 新形態プログラミング  
**参 加 費** 無 料(参加資格は問いません)  
**問合せ先** 富山大学工学部電子工学科 米田政明 Tel. 0764 (41) 1271

二木 厚吉(電総研)

~~~~~

日 時 平成元年2月17日(金) 14:00～16:00
会 場 信州大学工学部(長野市若里 500)
演 題 ソフトウェア開発プロセスのモデル化とその自動化支援
参 加 費 無 料(参加資格は問いません)
問合せ先 信州大学工学部 海尻賢二 Tel. 0262 (26) 4101

岸田 孝一(SRA)

~~~~~

**日 時** 平成元年2月25日(土) 15:00～17:00  
**会 場** 名古屋大学工学部8号館南館2階 情報工学科大学院講義室  
**演 題** A Theory for Nondeterminism, Parallelism, Communication and  
Concurrency (仮題)  
**参 加 費** 無 料(参加資格は問いません)  
**問合せ先** 情報処理学会中部支部 Tel. 052 (781) 5111 (内 5803)

Prof. Dr. Manfred Broy (Passau 大)

論文誌，欧文誌の購読のおすすめ

「論文誌」（月刊）および「欧文誌」（季刊）は有料頒布です。まだ購読されていない会員は新年度から購読されることをお勧めします。新規購読希望の方は本欄添付の購読申込書によりお申込みください。

論文誌および欧文誌のご購読について

論文誌「情報処理学会論文誌」（月刊）および欧文誌“Journal of Information Processing”（略称 JIP・季刊）は下記のとおり、有料頒布となっております。  
新規に購読を希望される会員は下記の申込書（コピーにて可）にて、お申し込みください。郵便振替口座番号、取扱銀行、送金先等は 12 月号 1,548 ページにあります。

| 年間購読料 | 会 員     | 非 会 員               |
|-------|---------|---------------------|
| 論 文 誌 | 4,500 円 | 7,800 円             |
| 欧 文 誌 | 3,000 円 | 6,000 円（海外 7,000 円） |

平成 年 月 日

論文誌・欧文誌購読申込書

下記により購読を申し込みます。（該当欄を○で囲む） 会員 No. \_\_\_\_\_

1. 氏 名 \_\_\_\_\_ 会員（正，学生，賛助）・非会員

連絡先 (〒 \_\_\_\_\_)

Tel. \_\_\_\_\_

送本先 (〒 \_\_\_\_\_)

注) 会員には学会誌の送付先に送本いたしますので、送本先の記入は不要です。

2. 購読希望誌（申込月の翌月以降の発行誌から送本します。送本希望欄は特に必要な場合のみ記入）

a. 情報処理学会論文誌（\_\_\_\_\_巻\_\_\_\_\_号から送本希望）

b. 欧文誌“Journal of Information Processing”（\_\_\_\_\_巻\_\_\_\_\_号から送本希望）

3. 送金の方法

¥ \_\_\_\_\_ 也をつぎによって送金いたします。（送金月日 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日）

a. 現金書留      b. 郵便振替      c. 銀行振込（\_\_\_\_\_銀行宛）

4. その他（学会事務局への連絡事項）